

情報通信審議会 情報通信技術分科会
技術戦略委員会 先端技術WG(第4回)
議事概要

1. 日時

平成28年4月7日(木)16:00～18:00

2. 場所

総務省 8階 第1特別会議室

3. 議題

- (1) 議事の進行について
- (2) 前回議事概要(案)の確認
- (3) 構成員等からのプレゼンテーション
- (4) 意見交換
- (5) その他

4. 出席者

- (1) 構成員(主任等を除き五十音順、敬称略)

下條主任代理(大阪大学)、伊勢村構成員(ヤンマー)、宇佐見構成員(KDDI)、栄藤構成員(NTTドコモ)、加藤構成員(富士通研究所)、葛巻構成員(トヨタ自動車)、桑津構成員(野村総合研究所)、桑原構成員(ALSOK)、阪本構成員【代理:岡村氏】(シャープ)、佐藤構成員【代理:大村氏】(電波産業会)、柴田構成員(三菱重工業)、下西構成員(日本電気)、白土構成員(日産自動車)、曾根原構成員(国立情報学研究所)、高野構成員(小松製作所)、田中構成員(日本電信電話)、丹構成員(北陸先端科学技術大学院大学)、中村構成員【代理:吉田氏】(三菱総合研究所)、南條構成員(日立製作所)、萩田構成員(国際電気通信基礎技術研究所)、本間構成員(パナソニック)、前田構成員(情報通信技術委員会)、森下構成員(YRP研究開発推進協会)、森田構成員(三菱電機)、矢野構成員(情報通信研究機構)

<ゲストスピーカー> 吉野日本代表(IIC)、木下理事(新世代 M2M コンソーシアム)、佐々木シニア・セキュリティ・アドバイザー(インテルセキュリティ)

- (2) 総務省

輿水総務大臣政務官

(情報通信国際戦略局) 富永大臣官房総括審議官、宮澤研究推進室課長補佐

(総合通信基盤局) 中村新世代移動通信システム推進室長

- (3) 事務局

5. 配付資料

- 資料WG4-1 プレゼンテーション資料(IIC)
- 資料WG4-2 プレゼンテーション資料(新世代M2Mコンソーシアム)
- 資料WG4-3 プレゼンテーション資料(日産自動車)
- 資料WG4-4 プレゼンテーション資料(インテルセキュリティ)
- 資料WG4-5 先端技術WGの検討状況について(案)(事務局)
- 参考資料4-1 先端技術WG(第3回)議事概要(案)
- 参考資料4-2 先端技術WGの論点例
- 参考資料4-3 先端技術WG 設置要綱
- 参考資料4-4 先端技術WG 構成員名簿
- 参考資料4-5 技術戦略委員会 検討スケジュール

6. 議事概要

3. の議題について検討を行った。議事概要は以下のとおり。

(1) 議事の進行について

事務局より、森川主任が病気により急遽欠席となり、また、下條主任代理も遠隔からの参加のため、議事進行が難しいことから、森川主任より丹構成員に議事進行をお願いしたいという意向があった旨の説明がなされた。本WG設置要綱の「1(8)その他WGの運営に関し必要な事項は主任が定める」により、第4回WGでは丹構成員が議事を進行することとなった。

(2) 前回議事概要(案)の確認

丹構成員より、参考資料4-1に基づき説明があり、前回議事概要(案)について了承された。追加で意見があれば、4月14日(木)までに事務局まで連絡することとなった。

(3) 構成員等からのプレゼンテーション

吉野日本代表から資料WG4-1、木下理事から資料WG4-2、白土構成員から資料WG4-3、佐々木シニア・セキュリティ・アドバイザーから資料WG4-4に基づき、それぞれ説明がなされた。

(4) 意見交換

上記(2)及び(3)に関し、意見交換が行われた。主な意見等の概要は次のとおり。

- IICの活動を通じてマネタイズをどこで行うのか。例えば、インタフェースについてレポ

ート化してマネタイズするのか、それとも企業間連携で新しいイノベーションが起これば良いと考えているのか。(栄藤構成員)

- 後者である。ただ、日本の企業は企業間連携も難しく、ほとんど自社でできてしまう企業もある。それでも現在はマーケットを拡大することを優先して連携し、ソリューションのスピードを上げていく方向で動いている状況。(吉野日本代表)
- インタフェースに関する知財の取り扱いはフェアにしているのか。(栄藤構成員)
- IICとしての対応はせず、その団体に任せている。(吉野日本代表)
- IICのWGの中にマーケティングWGがあり、その中にヘルスケア、エネルギー等様々な分野があるようだが、このマーケティングは分野がいくつあって、どのような形態で議論が進められているのか。(宇佐見構成員)
- マーケティングWGはIICとして自分たちの活動を広げるためのWG。例えば、メンバーをいかに増やすかということやメンバーに対するサービスについて検討しており、電話会議を隔週で行っている。(吉野日本代表)
- IICではテストベットでアウトプットを出すことが活動の中心であるとのことだが、マーケティングとテストベットの分野は必ずしも一致しているわけではないということか。(宇佐見構成員)
- 然り。(吉野日本代表)
- 中小企業に対するサポートについて、具体的にどのようなことを行っているのか。(加藤構成員)
- IICではないが、Industrial Internet Institute (I3)というグループを作って中小企業に対する支援を行っており、結果としてその企業がIICのメンバーになればと考えている。現在そのトライアルを開始している。(吉野日本代表)
- 中小企業で集まったコンソーシアムを組んでいるのか。(加藤構成員)
- コンソーシアムではなく、プロジェクトのような形で実施している。(吉野日本代表)
- IICのセミナーについて、TTCと連携して行うようだが、TTCとの関係はどのようなものなのか。(丹構成員)
- 総務省からTTCと連携するように言われ、昨年協力関係に関する覚書を締結した。今後はさらに日本で議論している標準に対する窓口機能も果たしていきたいと考えている。(吉野日本代表)
- 標準化や、それがマーケットにいかに寄与できるかという部分でマーケティングの方々と議論する場が必要であると認識している。今後そのような場を提供していきたい

と考えている。(前田構成員)

- Intel Security CIP の仕組みの概要について、クラウド、ネットワーク、エッジの中でネットワークの役割が大きいとのことだが、ネットワークの中にこのような仕組みを置くような考え方は出てくるのか。3層をうまく使うとすると、必ずしも閉域網でトンネル化するだけで全てが解決するわけではないと思うので、教えていただきたい。(宇佐見構成員)
- 業界によってセキュリティ対策をどこで行わなければならないかは変わってくる。エッジ側をしっかり守らなければならない場合は、エッジの部分にコストをかけて守ることが必要で、Intel Security CIP のような対策が取られる。一方、エッジよりもネットワーク側の対策に重きを置いて、通信ネットワーク内で通信を監視して影響が広がらないようにするという考え方もあり、例えば、ネットワークの一部を切り離せるような仕組みを作れば、サービス低下を最低限にできるだけ早く復帰させることができるのではないかと思う。エッジに組み込まれているものを通信網の中に入れるということも十分考えられる。(佐々木シニア・セキュリティ・アドバイザー)
- 各標準化団体の関係図において、AllSeen Alliance と OIC は産業では「競合」となっているが、スマートホームでは「Joint」となっている。この部分について詳細を教えてください。(丹構成員)
- どちらも完全に OSS 型であり、Linux Foundation を使ってより早くオープンにして良いものを作ってそれを標準にしようとしている。クアルコムやインテル、シスコとしてのコアの部分はあるものの、大半は OSS 型でオープンにしているので、このようなアプローチを取っているという意味では協業という要素もあるのではないかと思う。(木下理事)

(4) その他

事務局より、構成員に対して本WGの検討状況(案)に関する意見の募集について説明があった。また、次回の先端技術WGは4月22日(金)に開催予定である旨の連絡があった。

以上